



教員採用試験

合格体験記

インタビュー



第 91 号

宮城学院女子大学

日本文学会

2013 年 7 月

発行所

仙台市青葉区桜ヶ丘

九丁目1番1号

(279) 1311(代)

日本文学科ホームページ

<http://www.mgu.ac.jp/jl/>

二〇一二年度の中学校教員採用試験に合格された、岡田愛美さんと熊谷瑠美子さん(当時日本文学科四年)にインタビューを行いました。

Q 合格された今の気持ちををお願いします。

岡田さん(以下○) 四年間ずっと教員になることを目標として頑張ってきたので、その自分の努力が結ばれて嬉しく思っています。今年から始まる教員生活がどのようなものになるかはまだ分かりませんが、今の気持ちを大切にして頑張りたいです。

熊谷さん(以下○) 正直、今でも信じられないほど驚いています。岡田さんと同じです。教員を目指して頑張ってきたので、それがまさか一年目で実現するとは思っていませんでした。教師を目指したいと思った自分の気持ちを忘れずにこれからしっかりと責任を果たしていきたいと思います。

Q 教師を目指したきっかけは何かですか。

○ 先生という職業への憧れというのはいさなから抱いていたのですが、年を追うごとに自分のなかで徐々に教員になりたいという気持ちが育っていききました。東日本大震災を自分自身体験して、人とのかかわりを改めて考えるようになり、自分の将来に生かしていけるかと考えた時に、憧れだった教員という職業を本格的に目指したいと思ったのがきっかけです。

○ 私の一番大きなきっかけは、中学校の時に出会った先生方です。生徒一人一人と真剣に向き合っている姿を見て、私自身そういう大

人になりたい、子供に寄り添える大人になりたいと思いました。それをきっかけに教員として子供たちと接していきたいという気持ちが大きくなっていき、教員を目指そうと思いました。

Q 辛かったことや良かったことは何かありますか。

○ 四年生の五、六月まで何も動きがなくて自分の殻にこもって鍛えていくしかない中で、周りに取り残されていくのではないかと、学部の先生や教職センターの先生に背中を押してもらったことは勉強しながらも嬉しいなと思いました。

○ 周りの一般就職の人たちが動いている時、自分は勉強しかできない、しかもそれが本当に実を結ぶのか分からないというジレンマがありました。そんな中勉強している姿を応援してくれる人がいて、その人たちのためにも頑張らなければいけないと思い、自分の気持ちを試験まで保てたのは良かったです。

Q 教育実習はどうでしたか。

○ これまで勉強してきたことが通用しない世界に放り込まれたというイメージです。その中で自分の指導力、行動力が試されたい機会でした。現場の先生方の対応力や指導力を身近で勉強できる最大のチャンスだったと思います。○ 初日は緊張していましたが子どもたちが積極的に関わってきてくれて、私も自分から関わっていきこうと思いました。私にとってはやっぱり教師になる、と思わさせてくれた実習でした。

Q 勉強以外で、子供たちに教え

たいことは何かありますか。

○ 人とのつながりを大切に、周りとともに生きてほしいことを意識して成長してほしいです。苦しい時や悩んでいる時に誰かいて支えてくれたほうが力になるはず。自分の信頼している知人友人を作っていくというのが子どもたちには必要だと思います。

○ 周りの人と付き合っていく難しさや楽しさを伝えていきたいです。自分が経験した人とのつながりは本当に大きくて、今までの友達がいなかったら挫折していたようなことも多かったですし、先生がここにいてくれたらよかったと思うこともあったので、人とのつながりは大切だと実感したからです。

Q 教員採用試験対策の講座は積極的に参加するべきですか。

○ 周りに教員を目指している学生ばかりなので刺激になります。勉強時間を確保してくれるのでそれを有効に活用しない手はないと思います。

○ 私はサークルがあつて申し込めないときもあり、周りが参加して焦ったこともありましたが、行けるとなると早く行きたかったです。Q これからどんな教員を目指したいですか。

○ 教師は責任がとても大きい仕事だと私は思っています。そういう責任のなかで、子どもたちと夢や希望を一緒に育てていけるような教師になりたいと思います。自分の可能性をまだ分かっていない子どもたちに、あなたはこういうことが出来るよ、こういうことを頑張ってみようよと声をかけてあげられるような教師を目指していきたいです。

○ 子どもに寄り添った教師になりたいです。こっぴどからの一方的な発信だけではなく、その子がどんなことを思っているのか、何に悩んでいるのかなどをひとりひとりが分かちあられるようになりたいです。子どもの能力を引き出



せるのも教師の魅力ですし、夢や希望を与えられるような教師になりたいです。

Q 在学生、教員を目指す学生にメッセージをお願いします。

○ 一番は自分自身が味方なので、自分を信じてほしいです。私自身、何度も挫折しそうになりました。その時に、どうして自分は教師になりたいのか、という初期の気持ちを思い出してほしいです。その気持ちが最後まで自分自身を支えてくれる力になってくれると思います。自分を信じて、何事にも立ち向かっていく勇氣を持つてほしいと思います。

○ 自分が教員になりたいという思いを大事にし、今まで努力してきた自分に自信を持ってほしいです。自分だけのために頑張るといってしまいがちですが、応援してくれている人がこれだけいるのかと思うといい意味でプラスになります。周りが応援してくれていることに感謝して、そういった方々の存在を支えにし、夢を諦めずに頑張ってください。

○ 今回のインタビューで目標に向かう姿勢や気持ちなど、教員を目指す学生に限らず参考になるお話を沢山伺うことが出来ました。ご協力ありがとうございました。(手)

萩風抄

大学生になって、あまり本を読まなくなったように思う。本棚は読みかけの本や、一ページも開いていない本でいっぱいである。さまざまな知識を身に付けるためにも、できる限り本はたくさん読んでおきたいものだ。

そのように感じている中、最近書店で「本屋大賞」という言葉をよく目にするようになった。大学の講義でも、本屋大賞について書かれた新聞記事を紹介されたことがあった。記事の内容は「書店で本屋大賞と書いてあるのを見ると、手に取ってみたいくなる」、「芥川・直木賞はニュースで知る程度で、あまり読むことはない」などといったものであった。

本屋大賞とは、「本が売れないといわれるこの時代に書店員自らが売れる本を作ろう」という考えのもと発案されたものだそう。受賞作の中には、「博士の愛した数式」、「謎解きはディナーのあとで」、「舟を編む」など、ドラマや映画になった作品が多い。実際に作品を読んだことがなくとも、タイトルだけは知っていると、人も少なくないのではないだろうか。

「本屋大賞」に対する意見はさまざまだが、ノミネットする作品はどれも純粋に面白いといえる作品ばかりだ。実際に本と関わる書店員が作品を選ぶことから、私たちが読みやすく、おもしろいと感じる作品が多いのだろう。また、書店で受賞作やノミネット作品を宣伝することで、人々が本を読むきっかけにもなると思う。今後読者が手に取って読んでみたくなるような受賞作が出ることを期待し、より「本屋大賞」に注目していきたい。

(手)

(風)



四月八日に日本文学科新入生オリエンテーションが行われました。開会式は講義館のC201で行われました。まだ学生生活に慣れていない一年生の初々しさが目立ちました。一年前の自分達もこのように先輩方の目に映っていたのかと思うと、不思議な感覚に陥っていました。

と副手さんの紹介、先生方からはご挨拶を頂きました。先生のご挨拶は、新入生の学ぶ意欲に繋がったことと思います。また、他には日本文学会作成のビデオも上映しました。日本文学科図書室の貸出方法やレポートの提出方法、日本文学会室に設置してある印刷機の使用方法など学生生活に欠かせない事項の説明が主な内容でした。開会式終了後は礼拝堂にてクラス毎に集合写真の撮影をしました。第二講義館の各教室へ移動し、グループミーティングを行いました。このクラスは水曜日二講時間講義の日本文学基礎演習のクラスとなります。

グルーブミーティングでは、自己紹介や日文ビンゴを行いました。日文ビンゴは、ビンゴのマスが数字ではなく、日本文学に関する作家や作品の名前になっています。それ以外は通常のビンゴと変わりありません。ビンゴのマスには、



日文ビンゴの用紙の語群より、各グループで決めてもらいました。どのマスにどの語を入れるか相談して一年生の様子は和やかな雰囲気になっていました。開会式では、日文ビンゴの語を基に各教室で考えたキャッチフレーズを当てるクイズをしました。キャッチフレーズは日文ビンゴの語群を基に、クラス毎に考えてもらいました。その中うち印象的だったキャッチフレーズを二つ紹介しようと思います。「畑で待つシスコン教師」。この答えは宮沢

賢治でした。「畑で待つ」とは、賢治が残した黒板の言葉の「下ノ畑二居リマス」から来ています。「永訣の朝」での賢治の妹への献身的な奉仕が「シスコン」という言葉を連想させたのでしようか。そしてもう一つ。「腹話術で世界を動かします」とは誰のことかわかるでしょうか。答えは仙台在住の作家・伊坂幸太郎でした。作品『魔王』から由来したものでした。なかなか答えが出なかった難問でした。

『伏 鷹 里見八犬伝』 作/桜庭一樹 定価/六六七円 出版社/文春文庫
あの有名な英雄たちが異形の化け物だったら？本書は、滝沢馬琴の名作『南総里見八犬伝』の物語を、作者である桜庭一樹が独自の脚色を加え、全く違う話に作り変えた作品である。小さくとも立派な猟師である浜路は、最近多発している凶悪事件を追って江戸にやってきた。事件の犯人は、「伏」と呼ばれる犬の血が流れる異形の者たちだった。偶然一人の伏と接触したことで、浜路は伏を巡る世にも不思議な因果の輪に巻き込まれていく。



『絵のない絵本』 著者/アンデルセン 定価/二八六円(税別) 出版社/集英社
アンデルセン童話が馴染み深い今日「みにくいあひるの子」や「裸の王様」、「赤い靴」などは子どもに読みに聞かされた人も多いことだろう。今回ご紹介するのは、アンデルセンが目の目を始めたころの作品である『絵のない絵本』だ。

この作品はいくつかの短編からなっており、月が、ある貧乏書生へ語りかけるスタイルで物語が進んでゆく。月は自分が見聞きした物語を書生へ語りかける。「さあ、絵にしてごらん、話してあげたことを」と。どの国でも月を見ることが出来る様に月は世界中を旅する。ヨーロッパ、インド、中国、アフリカなど、様々な国のお話が詩情豊かに語られる。読み手はその国々へ実際に旅をしている雰囲気を感じることが出来るだろう。



また、集英社文庫の本書はタイトル通り、挿絵が無い。アンデルセンの世界を元に自分だけの絵本作ってみるのも面白いだろう。子どもを引きつける作品は、大人になっても魅力的なのだ。(彩)



岩手研修旅行



六月六日と七日に日本文学基礎演習の授業の一環として、一泊二日の研修旅行がありました。出発当日の朝、梅雨時の六月とは思えない晴れた日差しが私達を迎えてくれました。

一日目は岩手県にある一関市博物館と宮沢賢治記念館、石川啄木記念館に行きました。まず博物館前でクラスの集合写真を撮り、その後で班ごとに館内を回りました。一関市や日本刀の歴史、蘭学者や美術家の活躍が事細かな解説と共に展示されていました。中でも私たちの興味を引いたのは和算でした。一関周辺の神社やお寺を訪ねると、奉納された算額を今も見る

ことが出来るそうです。和算の展示コーナーでは、問題が提示されており、皆一生懸命解いていました。また、たくさん種類の日本刀に興味を引かれた様子も見受けられました。一関市で作刀を続けた舞草鍛冶は最も古い鍛冶集団の一つであり、舞草刀は日本刀の歴史を語る上で欠かすことのできない刀剣です。

昼食をとった後は宮沢賢治記念館へ向かいました。そこでは賢治の家族関係や信仰の深さなどを学びました。賢治は妙法蓮華經に深い感動を受け、その精神を生かしました。かの有名な『雨ニモマケズ』は法華經の常不輕菩薩の精神を表しているともいわれています。また、記念館の周辺には様々な花が咲いており、よだかの星彫刻碑や『注文多い料理店』に登場する山猫がいました。さらには同じく『注文の多い料理店』の中に登場するレストラン「山猫軒」があり、店の至るところに物語の一節が飾ってありました。

石川啄木記念館の玄関では、思わず本物の人間と間違えてしまうほどリアルな啄木の模型が出迎えてくれました。啄木が勤めていた済民小学校旧校舎では、先生方と学生達が席に着くと、授業風景が再現されたかのようでした。二日目は、秋田県の角館へ行きました。重厚で格調高い造りの薬医門をくぐり、武家屋敷の青柳家を見学しました。名画あふれる青柳庵ミュージアムや、エジソン蓄音機や珍しい時計などが展示されているハイカラ館。様々な文化遺産を見て、四〇〇年の歴史の重みを感じました。二日間という短い時間ではあり



(長)

なんでも ランキング

日本文学科の学生にアンケートを取り、行われるなんでもランキング。今回のテーマは「現代の俳優で実写化するならどの作品？」です。最近、小説を元としたドラマや映画が人気となっています。そこで、四冊の著名な日本文学作品から、実写化したら面白いのではないかと思う作品を選択していただきました。それでは簡単な粗筋を交えながら、投票結果を一位から発表します。

記念すべき第一位は、中島敦の『山月記』で、三五票と他の作品から圧倒的な票差をつけました。この作品は高校生のときに現代文で読んだ学生が多いと思います。臆病な自尊心と尊大な羞恥心のために虎となった李徴が、かつての友人と出会い、自分の想いを独白します。この作品は主人公である李徴が声だけで独白する部分が多いため、役者の演技力が試されます。コメントでは「虎への変

身シーンはどうするのか気になるから」「虎はCG加工なのか」「犬タレならぬ虎タレをみてみたいから」というように、どのように虎を表現するのか気になるため選択した学生が多かったです。また、単純にこの作品が好きだから」という意見もありました。

続いて第二位は、太宰治の『走れメロス』で、二〇票でした。この作品も、中学校や高校時代に教科書で読んだ学生が多いのではないのでしょうか。メロスは、自分のために邪知暴虐な王の人質となっている親友セリヌンティウスとの約束を果たすために走り続けます。そして無事に死刑直前に親友の元へ辿り着きます。王はこれを見て人情の力を感じ取るこの作品は、どのように実写化するのでしょうか。コメントでは「テルマエ・ロマエの役者陣でやってほしい」「メロスはぜひ阿部寛で」など、阿部寛主演の映画「テルマエ・ロマエ」のように顔の濃い役者さんを熱望する声が多数でした。また、強靱な肉体がみたい」「筋肉が好きなので」といったように、俳優陣のたくましい体が目当ての学生もいました。

第三位は、夏目漱石の『坊っちゃん』で、一四票でした。この作品は、日本文学科の推薦図書にもなっています。親譲りの無鉄砲で子供のころから損ばかりしていた坊っちゃんは、大学卒業後に単身四国の旧制中学校で数学教師として働きます。そこで同僚の教師が教頭から不当な扱いをうけて辞職してしまします。これに怒った坊っちゃんは、この教師と共に、教頭とその腰巾着である校長の不祥事を暴きます。そして彼らに天誅を加えました。その後辞職し、東京に帰り、街鉄の技師となりました。他の選択肢と違い、現実的な環境や物語なので、映像化しやすいのではないのでしょうか。コメントでは「実写化が一番しやすいから」「一番現実的に近そうだから」という理由が多く、やはり実写化が現実的であるため選択した学生が多かったです。「嵐の櫻井翔くんが演じてほしい」「向井理で見てみたい」など、坊っちゃん役を爽やか系の男性に演じてほしいという意見もありました。

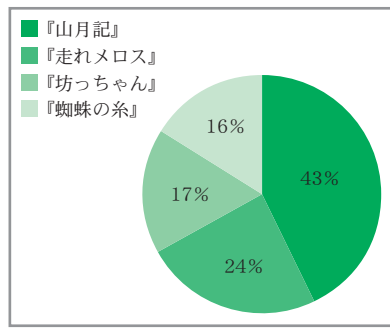
第四位は、芥川龍之介の『蜘蛛の糸』で、三位と一票差の二三票でした。御釈迦様が極楽の蓮池から地獄を見てみると、生前一匹の蜘蛛を見たことがある饅頭多を発見します。御釈迦様はその善行の報いに蜘蛛の糸を地獄へ下ろして、彼を救おうとします。しかし彼は自分だけが救われようとしたため、蜘蛛の糸は切れ、再び地獄に落ちて行ってしまう。ハリウッド並みのフルCG加工を持つてすれば、この世界観を表現することはできるのではないのでしょうか。コメントでは「現代のCG加工では可能なのではと思ったから」「ティム・バートン風のCGで見てみたい」など、地獄と天国の世界観をどのように表現するのか気になった学生が多いです。また「現代人を戦慄せしめよう」「現代人に善悪について考えさせよう」「現代人に善悪について考えさせよう」など、この作品から教訓を学べるからといった理由もありました。

第九回 創作文学賞
佳作
『ともしび』
二年 山柑 紫音 (P・N)

創作文学賞は八年前の二〇〇四年度から始まり、二〇一二年度が第九回目となります。昨年作品を募集したところ、五作品が集まりました。

二〇一二年度は、最優秀賞、優秀賞に該当する作品はありませんでしたが、一作品が佳作に選ばれました。簡単にですが、佳作に選ばれた作品のあらすじを紹介したいと思います。

山柑紫音さんの作品『ともしび』は、主人公の姉弟と、弟が幼い時に助けた不思議な一本の木のお話です。主人公の姉弟、美夏と正尚は優しい両親と仲良く暮らしていましたが、物語は、引越してきたばかりの頃、家の裏山へと登った正尚とお父さんが、前日に降った雨のせいで、根が土から出てしまった小さな木を見つけ、正尚が優しく木の根に、土をかけてあげるところから始まります。



第九回 創作文学賞
佳作
『ともしび』
二年 山柑 紫音 (P・N)

創作文学賞は八年前の二〇〇四年度から始まり、二〇一二年度が第九回目となります。昨年作品を募集したところ、五作品が集まりました。

二〇一二年度は、最優秀賞、優秀賞に該当する作品はありませんでしたが、一作品が佳作に選ばれました。簡単にですが、佳作に選ばれた作品のあらすじを紹介したいと思います。

山柑紫音さんの作品『ともしび』は、主人公の姉弟と、弟が幼い時に助けた不思議な一本の木のお話です。主人公の姉弟、美夏と正尚は優しい両親と仲良く暮らしていましたが、物語は、引越してきたばかりの頃、家の裏山へと登った正尚とお父さんが、前日に降った雨のせいで、根が土から出てしまった小さな木を見つけ、正尚が優しく木の根に、土をかけてあげるところから始まります。

そのから何年か経ったある日の事、両親は、正尚と美夏が気づかないうちに、どこかへ行ってしまう。夕方になっても全く帰ってこない配のない両親の事を、正尚が家の前でうろろしながら心配していると、家の裏山になにか

どうすればよいのか分からずに、途方に暮れる美夏と正尚。そんな二人を導いてくれたものとは一体何だったのでしょうか。そして、いなくなった両親と二人は、無事に再会することはできたのでしょうか。

なお、今回の創作文学賞では、最優秀賞が出なかったため、「日本文学ノート」への応募作品の掲載はありません。総評のみの掲載とさせていただきます。

今回、佳作を受賞された山柑紫音さん、本当におめでとうございませう。そしてご応募いただきました皆さん、本当にありがとうございます。

今年度も、第一〇回創作文学賞を開催します。応募要項につきましては、詳細が決まり次第、随時報告いたします。一月末頃から作品の募集を開始させていただきますので、今年度の創作文学賞も最優秀賞を目指し、奮ってご参加下さい。

皆さんの創造力あふれた素晴らしい作品を創作文学賞委員一同、心よりお待ちしております。

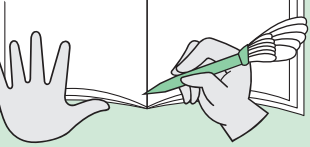
(麻)

つるの女面を用いて、特別に四人の学生が面をつけて、特別に四人の面をつけて、頭をきつく縛る紐や、面に鎖骨が当たったりして痛く、視野もとても狭いそうです。また、能面の裏側など、普段見ることでできない所まで見るものが出来ました。舞台ではこの面を生かして陰影をつけるために、約十キロの能衣装を着て常に一定の角度を保ち続けなければならぬそうです。その後、謡について説明がありました。『杜若』の詞章(楽譜)を見て、その一部を実際に謡いました。謡には絶対音感がなく、音階は上中下で表されています。また、本来男性が謡っているものなので音が低く、女性には謡いづらいと感じました。寛泰先生が謡うと、普段の話し声とは全く違い、お腹から声が出ているためか、講義室全体にその声が響き渡りました。その空気の変化に多くの学生は感動を覚えたようです。最後の質問コーナーでは、能楽師としての夢をお聞きすると「日本にいます。日本古来の文化を見たことがあるという状況をつくりたい。見て、理解してもらいたい。そのために、若い人にも分かりやすい講演をしていきたい」とおっしゃっていました。

今回の講座では、多くの本物に触れることができ、より能への興味や理解が深まったように思います。終始笑いが絶えず、楽しくお話を聞くことができました。佐藤寛泰先生、ありがとうございました。

(竹)

創作文学賞



リーディング マラソンについて



リーディングマラソンとは、日本文学科が進める推薦図書の中から本を選び、それを読んだ上で感想文をまとめる企画です。二〇冊で「資格個別研修Ⅰ」（二単位、四〇冊で「資格個別研修Ⅱ」（四単位）が認定されます。両方を取得するには、合計六〇冊分の感想文を提出する必要があります。前期での単位認定を希望する場合は七月一七日、後期の場合は一月一六日が締め切りとなります。単位はそれぞれ一回しか認められません。

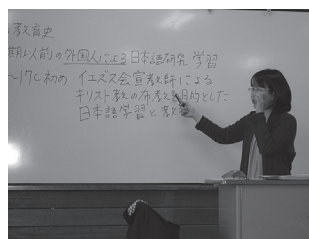
感想文はワードにて作成します。書式設定は、用紙のサイズはA4横、一ページ三〇行×四〇文字の縦書きにします。一行目に学年・クラス・学籍番号・氏名、二行目

ある日の授業風景



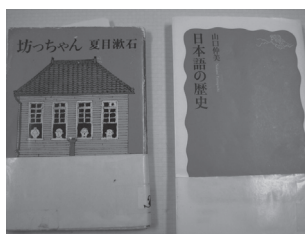
宮城学院女子大学日本文学科は、国語の教員をはじめとするいくつかの資格を取得することができ、その中で今需要が高まっています。その一つに「日本語教員」が挙げられます。今回は、この日本語教員になるための必須である二年開放科目「日本語教育概説Ⅰ」の授業風景についてご紹介したいと思います。

「日本語教育概説Ⅰ」とは、日本語教員になるために、担当教員の三島敦子先生の下、生徒たちが日本語教育の歴史や、三島先生自身の体験談などを通して日本語教



に書名を記入します。提出する際は、リーディングマラソン専用のメールアドレスに感想文を添付ファイルという形で送信します。メールのタイトルは「書籍番号（推薦者名）」、例として、「13（田島先生）」とします。

各先生方の推薦図書として、田島先生の『日本語と外国語』、澤邊先生の『もしも：あなたが外国人に「日本語を教える」としたら』、九里先生の『近代詩から現代詩へ』、伊狩先生の『金閣寺』、『坊っちゃん』、田中先生の『中国文学入門』、『知識ゼロからの三国志入門』、星山先生の『知識ゼロからの源氏物語』、深澤先生の『これぞ古典がよくわかる』、『謡曲平家物語』などがあります。



育の基礎を学ぶことができる科目です。この日の授業では、日本語教育の歴史について学びました。日本語教育が初めて他国の人々になされたのは遣隋使や遣唐使が派遣された頃です。しかし、そのころの日本は国としてはまだ未熟で、自分たちが高度な技術を得るのに必死だったため、十分な日本語教育はされなかったそうです。ようやく本格的な日本語教育が始まったのは明治時代頃で、キリスト教を広めに来た宣教師たちに教えたのが最初でした。宣教師たち

日本文学会 紹介

みなさんは日本文学会、通称日文会をご存知でしょうか。日文会は人文館三階の階段の近くにある日文会室を拠点に、三つのパートに分かれ活動しています。日本文学科の学生になると一度は利用するだろう日本文学科図書室の管理をしているのは図書部です。希望のあった図書の購入や本の配架、貸出の管理を行っています。次に、外部の先生をお招きする講演会の運営や、年に一度開催している文

文学旅行 のお知らせ



皆さんは、「文学旅行」が一体何なのかご存じでしょうか。「文学旅行」とは、日本文学会企画部が企画・運営する日本文学科学生のための旅行です。昨年度に引き続き、今年度も企画部では文学旅行を企画しております。

昨年度は、日帰りで山形県に行き、天童市美術館や広重美術館、また出羽桜美術館を訪問しました。天童市美術館では、ユリア・ヴォリ作『ぶた』シリーズと島田ゆか作『バムとケロ』シリーズの絵本原画などを見ました。また、広重美術館では、初代から四代までの

学旅行の企画を行っている企画部があります。文学旅行は、学生の目線から企画するため低価格かつ同年代が興味を持つ施設の観覧などができる旅行になっています。一昨年は青森、昨年は山形に行きました。今年はどこへ行くのでしょうか。気になる方は今回の『葉』に詳しく載っているのは是非ご覧ください。そして、この『葉』を発行している編集部です。『葉』に載せる記事の構成、執筆はものるんのこと、見出し（各記事をついているタイトル）を、デザインしているのも実は会員なのです。

各パートについて紹介しましたが、日文会全体で動く行事もあります。新入生オリエンテーション

の運営や毎年五月に行う日本文学科定期総会の開催、大学祭への参加などもしています。大学祭では毎年休憩所を提供しています。どうぞお立ち寄りください。日文会の密かな活動を紹介しましたが、みなさんが多く関わるのは印刷機の使用ではないでしょうか。演習などの授業の際に心血をそいで作成した資料の、最後の工程である印刷のお手伝いをしています。授業の資料であれば十枚から百枚以上まで承っています。お気軽に会室まで資料をお持ちの上お越しください。

編集後記

今年の四月は積雪や大雨に悩まされました。そんな中、新たに一年生が入学し、新年度がスタートしました。日本文学会にも多くの一年生が入り、緊張しながらも一生懸命事に励んでいます。さて、今回の『葉』は教員採用試験に合格された方々へのインタビューや、文化史、日本語教育の授業風景など日本文学科に特化した内容を多く掲載しています。また、今年度から少し形式が変わったリーディングマラソンについても掲載しています。これを機会に日本文学科の学生はリーディングマラソンに取り組んでみてはいかがでしょうか。また、毎回協力いただいている、なんでもランキングの結果も発表されています。自分が選んだものが何位になったのかぜひ確認してみてください。今回の『葉』はいかがだったでしょうか。次回より良い『葉』を作成したいと思います。

日本文学科編集部